

街道を歩く

“国盗り物語”司馬遼太郎によれば……
齋藤道三 (1494-1556 63歳)

明応3年(1494)山城国乙訓郡西ヶ洞の松波基宗
 と言う下級武士の家に生まれる?11歳の時日蓮宗
 妙覚寺に弟子入りし法蓮房と称した。後家に帰り
 松波庄五郎と改名。同じ西ヶ洞の油問屋奈良屋の
 養子になり美濃に行くうちに土岐氏の老臣長井
 利隆に武士としてとりたてられる
 やがて長井家の跡を継ぐ、家督相続に負けた
 土岐頼芸の秘命を受け美濃国守護土岐頼朝の
 革手城を攻め頼芸を国主にする。老臣長井利安を殺害
 天文4年齋藤新九郎利政就いて入道道三と改名
 天文7年(1538)齋藤利良が没した時その家督を継ぎ
 守護代になる。天文11年美濃を盗ろうと大桑城の頼芸
 を攻める。頼芸織田の元に逃げる。天文13年織田、
 朝倉連合は道三攻めるが敗れる。頼芸大桑城に戻る
 天文16年織田信秀道三を攻めるが大敗、頼芸越前へ
 逃れる。天文17年(1548)織田と和睦し娘濃姫を信長に
 嫁す。井ノ口城を嫡子義龍に譲り鷺山城に隠居する
 弘治2年(1556)義龍の廃嫡を図って長良川畔で敗死
 メモ:最近の説では道三の父(長井新左衛門尉)が道三より早く
 美濃に来ていたようで親子2代で国盗りしたようだ



美江寺 (天台宗、通称美江寺観音)
 奈良時代に元正天皇の勅願で現楽南町
 美江寺に創建される。本尊乾漆十一面観音
 (元は伊賀国の坐光寺にあった)
 齋藤道三が天文年間(1532-55)に城下の
 繁栄と守護のためにここに移す

金鳳山 正法寺 (黄檗宗)
 京都宇治の黄檗山万福寺の末寺、150年前に
 建てられた像の高さ13.6mの大仏がある
 骨格木材、外部竹材で編み、一切経、観音経
 、阿弥陀経を貼り、漆を施し、金箔で仕上げる。
 胎内に薬師如来像



立政寺 (浄土宗)
 正平9年(1354)智通光居が開山、別名桜寺
 越前から近江の小谷を経てやってきた
 足利義昭の仮御所、信長がここで拝読
 信長の天下への道へのきっかけとなる
 家康関ヶ原へ向かう途中休憩、後下馬所となる

円徳寺 (浄土真宗)
 寿永2年(1183)堂宇が建立され法泉寺と称した
 のが始まり、本尊阿弥陀如来
 寺には織田信長が寄進した鐘、楽市楽座制札
 がある。境内には信長の父信秀が稲葉山城
 攻め大敗した時の戦死者を葬った織田塚がある
 関ヶ原の戦いで西軍に味方した
 織田秀信敗れ、ここで剃髪高野山へ



霊薬山 正法寺
 14世紀の中頃美濃守護土岐頼康
 によって建てられた禅宗法燈派の
 寺院、応仁の乱のとき一桑兼良ら
 の文化人が来て文化の花が開いた
 永禄4年焼失、加納城築城で土石
 採取で今は薬師堂と老木が残るのみ

国盗り物語 岐阜市内史跡

神護山 **崇福寺** (臨済宗妙心寺派)
 文明元年(1469)美濃守護土岐成頼と家臣
 齋藤長弘が建立。悟溪宗頼門下の独秀乾才
 が開山。後に織田家菩提寺、有栖川家祈願所となる
 住職三世快川和尚は武田信玄に招かれ
 甲斐の恵林寺に移る。武田の敗軍を匿い
 信長の怒りに触れ”心頭を滅却すれば火も
 自ずから涼し”の言葉を残し焼死
 信長親子の廟所、血天井がある



常在寺 (日蓮宗)
 宝徳2年(1450)美濃国守護代齋藤妙椿が
 妙覚寺の日籠を招き開創、本尊文殊菩薩
 道三の国盗りの拠点、齋藤家の菩提所
 齋藤道三、同義龍の画像(国重文)の複製
 画がある



美江寺
 市民会館
 岐阜市役所
 付属病院



革手(川手)城
 土岐守護2代目頼遠が長森に城を築く
 3代目頼康が軍功により美濃、尾張、伊勢
 の守護になる。長森が狭くなったので岐阜の
 川手に革手城を築く、周囲に七堂伽藍の正
 法寺ほか神社仏閣を建て11代頼芸まで続いた
 (1495年舟田の戦いで一時廃墟となる)
 応仁の乱の時は都から公家や文化人が逃れ
 きて文化の花を咲かせた
 齋藤道三になってからは井ノ口に本拠を
 置いたため廃墟となる

